

【地域住民向け】

多世代居住コミュニティ推進

ハンドブック2

地域への働きかけ

令和4年3月版

ハンドブック1【共通】
多世代居住コミュニティとこのハンドブックについて

ハンドブック2【地域住民向け】

地域への働きかけ

ハンドブック2-①【市町村職員向け】
市町村の庁内検討・連携

ハンドブック2-②【市町村職員向け】
地域への働きかけ

ハンドブック3【共通】
地域で考え、取り組む機会づくり

ハンドブック4【共通】
地域における集まる場（拠点）づくり

ハンドブック5【共通】
地域における活動の充実・継続的な活動へ

- 本ハンドブックは、随時事例収集等を行い、必要に応じて加筆・修正を図りながら内容を充実させていきます。
- 参考となる取組事例、ご意見、ご要望等がありましたら、神奈川県住宅計画課までご連絡ください。

目次

ハンドブック2 地域への働きかけ 【地域住民向け】

序章 プロローグ	・・・・・・・・	P1
第1章 目的の検討と情報収集	・・・・・・・・	P2
1 目的の明確化		
2 地域状況の把握		
(1) 地域の現状を調べてみる		
(2) 地域内のキーパーソン等の探し方		
(3) キーパーソンへのアプローチ		
第2章 キーパーソン・団体との意見交換	・・・・・・・・	P7
1 キーパーソン等との意見交換の実施		
2 キーパーソン等との意見交換のテーマ		
第3章 地域住民への働きかけ方・入り方の共有化	・・・・・・・・	P9
1 声かけする住民等		
2 話し合う場のづくり方		
(1) 話し合いの進め方		
(2) コーディネーター等の役割		
(3) 話し合いの目標		

序章 プロローグ

1

地域主体による多世代居住コミュニティの実現に向けて

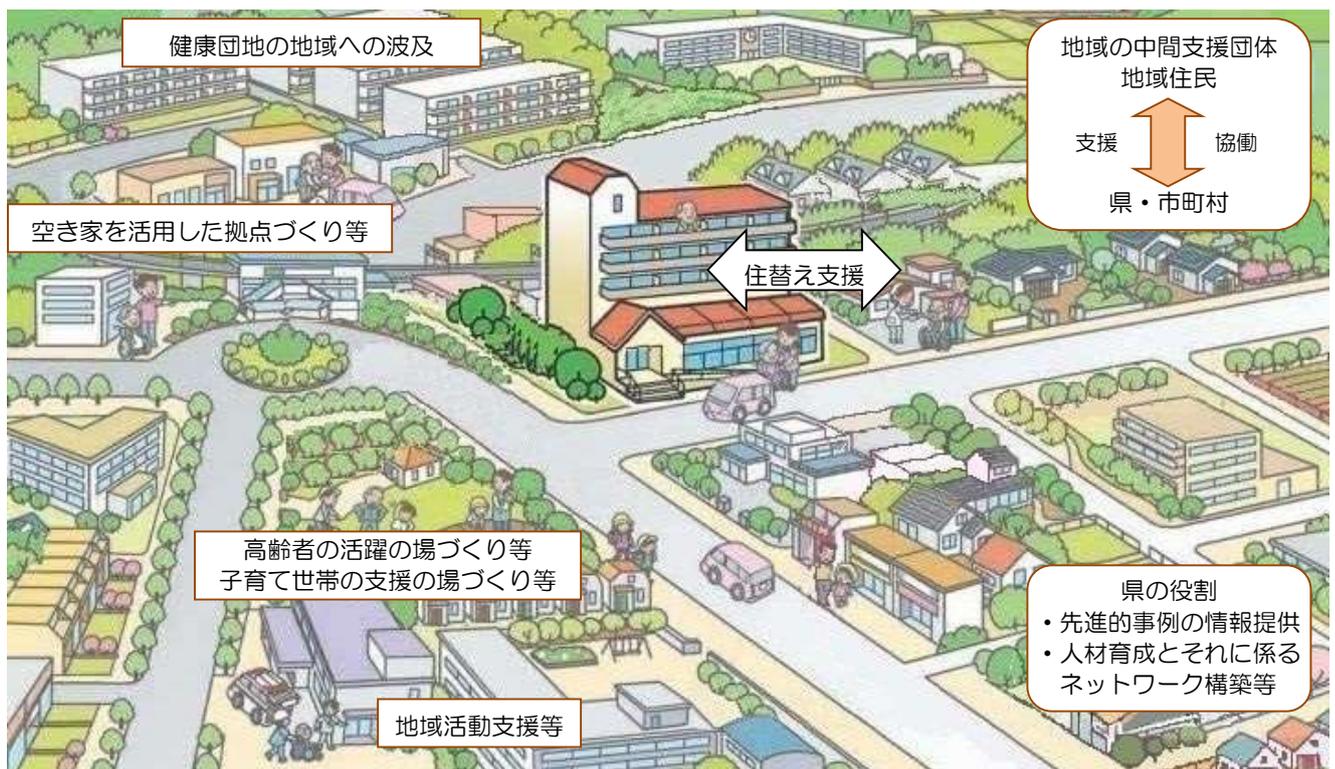
地域の住民の方々の思いが地域を動かす！

地域を良くしていきたいという思いを大事に育てていきましょう。

神奈川県では、少子高齢化や空き家の発生によって活力が低下している住宅地において、子育て支援・ミスマッチ住宅の住み替え支援などで若者世帯を増やし、併せて、空き家を活用した多世代の交流拠点整備などで居住コミュニティの創出・再生を図り、子どもから高齢者までの多世代が互いに支え合い、誰もが生き生きと生活できる「多世代居住のまちづくり」に取り組んでいます。

これらの多世代居住コミュニティを実現させるには、自治会、町内会、NPO法人やボランティア団体など多様な主体と連携することはもとより、地域の住民の方々の地域を良くしていきたいという思いが成功の鍵です。

多世代居住コミュニティの創出・再生イメージ



1

目的の明確化

多世代居住コミュニティづくりの目的を明確にしましょう

何を検討・議論するのかわかりやすくなります。

地域におけるコミュニティ活動の活力低下は少子高齢化の進行による担い手不足、購買層の減少による商店街の衰退、空き家・空き店舗の発生など多様な要因が連鎖的に関係し、さらなる地域力の低下につながっていきます。

このような地域課題は、住宅地の形成過程や立地状況により異なり、一律な解決方法があるものではありません。地域の多様な組織・住民の主体的な参加で、どのように解決を図っていくのか、考え取り組んでいく必要があります。まずは目的を明確にして検討の方向性を定めます。



2

地域状況の把握

まず、その地域の現状や課題や既に取り組まれてきた活動、担い手について情報収集しましょう。

(1) 地域の現状や各種制度を調べてみる

多世代居住コミュニティの実現にむけて地域や制度の情報を集めましょう

世帯数や住民の年齢構成など、統計で把握したり、地域での取組みが情報発信されていないか、調べてみましょう。行政のホームページでは様々な統計資料が公開されています。WEBサイトなどで検索すると、タウン誌などで取材された地域の活動が出てくることもあります。

また、まちづくりや市民活動に対する様々な公的支援制度もあります。市民活動支援センターや役所のホームページなどで、どのようなものがあるか、調べてみましょう。



(2) 地域内のキーパーソン等の探し方

地域づくりに意欲的なキーパーソンを探し、その活動情報を集めましょう

地域づくり活動をおこなっているキーパーソン等の理解と協力を得ること
で、広く住民に働きかける素地ができます。

多世代居住コミュニティづくりに取り組むためには、その地域で、様々な役割を果たしているキーパーソン等と出会い、共に活動していくための信頼関係を結ぶことが大切です。キーパーソン等には、自治会・町内会等の地縁型、NPO・ボランティア団体等のテーマ型の活動や、行政職員等、多様な人材・組織が考えられます。役割の違いだけでなく、それぞれで抱える課題や問題意識も違います。

まず地域づくりのキーパーソン等の情報収集からはじめます。信頼する個人・団体へのヒアリング、行政や市民活動支援センターなどの公共施設の職員等に相談し、どのような人がどのような活動をしているのか、キーパーソン同士の関係性も含めて地域の状況を把握しましょう。

あわせて、まだ活動は始めていなくてもコミュニティづくりに意欲的な住民がいないか、また課題内容によっては、他地域の活動団体や事業者についても、情報収集しておきましょう。

○市町村職員もキーパーソン

多くの参加を得て合意形成し協働していくためには、行政との連携や協働は有効です。関わりが得られるように、早い段階でアプローチしてみましょう。知り合いの行政職員に相談したり、役所にはまちづくりや地域振興などの部署がありますので、まずはそうした窓口で相談してみましょう。

居住コミュニティ政策の取組みは、まだ始まったばかりです。そのため、市町村によっては、担当する部署が決まっていない場合もあります。ただ、思いを同じにする行政職員は必ずいますので、様々なアプローチで行政職員に相談することが重要です。



(3)キーパーソン等へのアプローチ

直接キーパーソン等と会って、信頼関係を構築しましょう。

直接に会って話しをしたり、活動に参加することにより、相互理解がはかりやすくなります。

(1)で情報共有ができれば、キーパーソン等とつながりのある人や組織を通じて連絡をとる等、相手に合わせた適切な方法でキーパーソン接点をつくりましょう。

キーパーソン等に対して、こちらの意図を一方向的に説明するだけでは、取り組みへの理解と協力を得ることは困難です。キーパーソンが関わっている活動に参加してみるなど、まず相手を理解しようとするのが大切です。

キーパーソンは、様々な人や団体と係わりを持っています。状況を十分に把握し、キーパーソンの迷惑とならないようつながりましょう。



活動への参加は、公開された活動でない場合、活動メンバーの承諾（理解）が必要になります。



〇まちづくり担い手養成講座

神奈川県では、住民自らがまちづくりの担い手として活躍するための「学びの場」として、「まちづくり担い手養成講座」に取り組んでいます。

住民によるまちづくりの第一線で活躍する方々を講師にお招きして、地域の様々な資源を活用し、仲間の輪を広げながら、楽しく活動を続けるための考え方やノウハウを、いろいろなテーマから学べる講座です。



子育て中の親たちによるまちづくりパネルトーク
(H29/茅ヶ崎市 ふらっとバル茅ヶ崎)



ひと・まちをつなぐ、居場所づくりのすすめ
(H30/新川崎タウンカフェ)



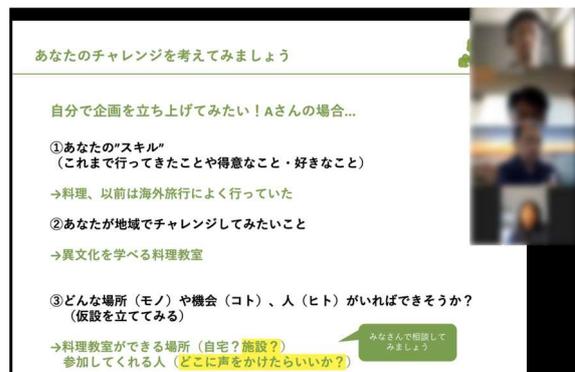
“想い”を“場”にする
「場づくり」のすすめ方〈前編〉
(R1/横浜市中区 mass×mass 関内フューチャーセンター)



今、まちづくりについて思うこと
(R2/横浜市中区 mass×mass 関内フューチャーセンター)



自分のスキルを地域でどう生かす? ~地域の情報発信・コーディネート現場から~
(R3/オンライン開催)



第2章 キーパーソン・団体との意見交換

1

キーパーソン等との意見交換の実施

キーパーソン等と「地域が主体となる多世代居住コミュニティ」についての考え方を擦りあわせましょう。

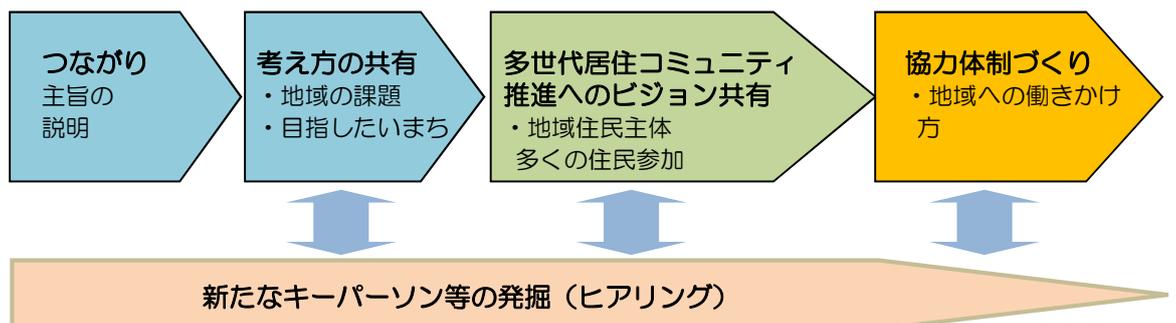
キーパーソンの協働する意欲を高めるには、問題認識の共有を行うことが重要です。

キーパーソン等とつながるときには、過去に行われてきた取組みに十分に考慮してつながる必要があります。

まずは、キーパーソン等の把握している地域の現状や課題、目指したいまちの姿等について聞き取り、話し合い、その中で問題認識を共有することが出発点となります。「行政にしてもらう」意識でなく、お互いが協力することで何ができるかを一緒に考えていき、多世代居住コミュニティ推進のビジョンを共有しましょう。

また、同時にキーパーソン等の人脈を通じて新たなキーパーソン（人材）等の情報収集も行いましょう。

<キーパーソン等との意見交換のイメージ>



2

キーパーソン等との意見交換のテーマ

キーパーソン等と一緒に話し合うテーマを決め、課題解決の取組み方を考えましょう。

地域が主体となる取組みへの第1歩です。

話し合いのテーマとしては、「高齢者・子育て・障がい者・外国につながる住民・地域交流・健康づくり・住環境」などの内容が考えられますが、話し合いを行っていく中で、柔軟にテーマを決めていきましょう。

<キーパーソン等との意見交換の主なテーマ>

個別テーマの取組み状況・課題
(高齢者・子育て、障がい者、外国につながる住民、地域交流、健康づくり、住環境など)

キーパーソン等からも話し合いたいテーマを出してもらいましょう。

多世代居住コミュニティの推進には、地域住民が主体となって進めることが大切です。キーパーソン等に多様な住民が参加できるよう働きかけしてもらいましょう。

多くの住民が係わる必要性
(多くの地域住民が係わる環境の整備)

コーディネーター・プロデューサーの必要性
(自由な話し合いを行うための環境の整備)

自由な話し合いを行うには、意見や、方向性等の整理など、話し合いをリードしたり、発言しやすい雰囲気をつくり、議論を深める役割が必要です。まずは、キーパーソン等の中で探してみましょう。

多くの地域では、コーディネーター等を担える人材が不在となっています。そこで、地域の人材等の把握を行うとともに、この時点で人材がない場合には、外部からの専門人材の受け入れについても、検討しましょう。

地域外の人材・団体の受け入れ
(地域内の人材等の把握)

※コーディネーター：調整役、プロデューサー：事業進行役

第3章 地域（住民）への働きかけ方・入り方の共有化

1

声かけする住民等

世代や立場の違う住民や様々な活動団体等に声かけを行いましょう。
多世代居住コミュニティの形成には様々な住民等の参加が不可欠です。

多世代居住コミュニティの形成には、多世代がつながり、様々な活動団体等が連携協働することが重要です。最初の話し合いから様々な住民が参加し、色々な視点でアイデアや意見を出し合えるようにしましょう。

また、声かけは行政職員にも行い、関連する制度等の情報提供や、今後の理解と協力を得ていく素地にしましょう。

いろいろな立場、いろいろな団体が組み合わさることが力を生み出します。



たとえば、高齢福祉がテーマだからといって、それに携わっている人のみに声をかけるのでは意味がありません。思わぬところから、気づかなかった視点や新たなアイデアが出てくるものです。次世代を担う高校生・大学生から子育て世代、高齢者まで幅広い層の参加を目指しましょう。

<次世代を担う参加者も集めましょう！>

多くの地域で、活動の担い手自身が高齢化し、次世代の担い手不足が懸念されています。このため、より多くの次世代を担う参加者も集めましょう。

事例：神奈川県「特命子ども地域アクタープロジェクト」

県はNPO及び企業と協働し「特命子ども地域アクタープロジェクト」に取り組んでいます。この事業は、子どもの社会性を育み、地域における活動の企画や運営に、子どもが意見を言ったり、大人と一緒に取り組む機会を増やすことを目的として、まちづくりに積極的に関わろうとする子どもを「特命子ども地域アクター」として養成し、まちづくり現場へ派遣するものです。

特命 かながわボランティア活動推進基金 21 協働事業
子ども地域アクター★2018 年度成果発表会

2019年2月24日(日) 13時開場 13時半～17時 **入場無料**

場所：リストリンクラウンジ(リスト株式会社1F、関内駅徒歩1分)
 横浜市中央区尾上町 4-47

事前にお申し込みくださった方には資料を郵送します。
 お申し込みはこちらのフォームからどうぞ。
<http://ybu1.net/P1.mA>

事前のお問い合わせはメールでお願います
minicityybu@gmail.com
 電話：045-306-9004 (10時～18時・水曜休)

当日スケジュール

開場 13時：ゼビパル展示をご覧ください
 スタート 13時半～17時

第一部 13時半～
 ・特命子ども地域アクター自己紹介
 ・事業説明：特命子ども地域アクタープロジェクトとは？
 ・2018年度9団体派遣報告

第二部 15時～
 ・子ども青少年の地域社会参画・成功事例レビュー
 ・「子どもと一緒に活動する大人のためのノウハウ講座」
 講師：現役特命子ども地域アクター

第三部 16時～まちづくり団体 VS 特命子ども地域アクター
 ・トークセッション「「まちで活動して自分はどう変わった？」
 「子どもたちを活動の企画・実施に巻き込むのが超った？」
 などについて、ホッペファミリーーク
 17時終了

子どもまちミニシアター
 実行委員会に派遣

「こどものまち」を御座います、
 アドバイスが欲しいとの特命。
 子ども会議のファシリタート参加し、
 ミニシアターをサポート。

千本駅前自治会に派遣

シニア中心の千本駅(大南)のサロン
 で子どもたちが集まり「こども文化祭」
 のイベントの企画と運営を行った。

NPO 法人横浜プランナーズ
 ネットワークに派遣

変革地域のプロジェクトに
 中興の委員を抜任したいと特命。
 三つの変革地活用を積極し意見出し。

子どもまち「ミニシアター」
 の子ども運営委員が足りないと
 子ども会議と本イベントを
 現場のことごとりと企画運営。

まちづくり団体の大規模な活動に子ども
 たちもたのしみあるようにしたいと特命。
 さくらがわかことども都市を支援

子どもまちミニシアター
 実行委員会に派遣

NPO 法人 Love うづきに派遣

事業家の小まを促した商品開発。
 アクターが小学生の1クラス
 が参加し、商品のパッケージ完成。

川崎市まちづくり局職員研修に派遣

川崎市役所で開催している
 小学生向けの「実践ボードゲーム」
 のモニターとしての意見出し。

戸部大通り商店会に派遣

戸部大通り商店会の運営委員のため
 鉄道建設現場で「こども参画」を支援。
 地元のことどもたちイベントを支援。

ガンポートお祭り実行委員会副会長に派遣

平塚の商店街のおまつりに、こども
 たちも参画したいと特命。
 当日こどもたちが参画しめるお役を運営

特命子ども地域アクタープロジェクトの理念は、
 株式会社 FREEing に託されています。 **FREEing**

主催 かながわ子どもの地域社会参画推進会議
 NPO 法人ミニシティ・プラス(事務局) / 神奈川県福祉子どもみらい母子みらい啓育少年課 / NPO 法人シャーロックホームズ /
 リスト株式会社 / NPO 法人横浜プランナーズネットワーク / NPO 法人夢キープ / スマイル ミニシティ プロジェクト
 協賛 神奈川県福祉子どもみらい母子みらい啓育少年課 / 神奈川県無功徳島中小企業部商業推進課
 神奈川県教育庁指導部高校教育課 / 神奈川県国土建設局都市部都市整備課

2018 年度特命子ども地域アクター成果発表会ポスター



2

話し合う場のつくり方

(1) 話し合いの進め方

誰もが自由に意見を言える雰囲気をつくりましょう。
 安心して自由に発言できるようにするためには、進め方に工夫が必要です。

話し合いでは、参加者が安心して考えや意見を発表でき、自由な発想でやりたい活動などを話せる雰囲気づくりが必要です。例えばアイデアを出し合う段階では、小グループに分けて話す、決して否定しないなど、進め方に工夫やルールが必要です。

<進め方例>

- **ほかの人の意見を否定しない！**

話し合いの場は参加者がお互いの声を聞き、発想を共有し、新たな取組を生み出す機会です。参加者が萎縮したり、ほかの参加者を気にして言いたいことが言えないことのないように、進め方を工夫しましょう。

- **話の内容や考え方を誘導しない！**

話し合いの主催者は「こうあるべき」を押し付けてはいけません。新たな取組への可能性が狭まり、参加者の意欲が損なわれます。

- **実現できる・できないに関わらず自由な発想で！**

一見実現できないようなことでも、活用できる資源の情報が出てきたり、工夫や連携で、それに近いことができるかもしれません。大事なものは「参加者が主体的に意見を出すこと、皆で発展させる」ことです。



地域の良いところ、地域に欠けているものや課題を知り、それを補ったり、課題解決したり、さらに良くするために地域主体で何ができるかを話し合いましょう。



(2) コーディネーター等の役割

誰もが意見を言える場をつくることが大切です。

第三者的なまとめ役がいることで、話し合いがスムーズに進むことがあります。

住民等のまちづくりに関する認識や活動は様々です。

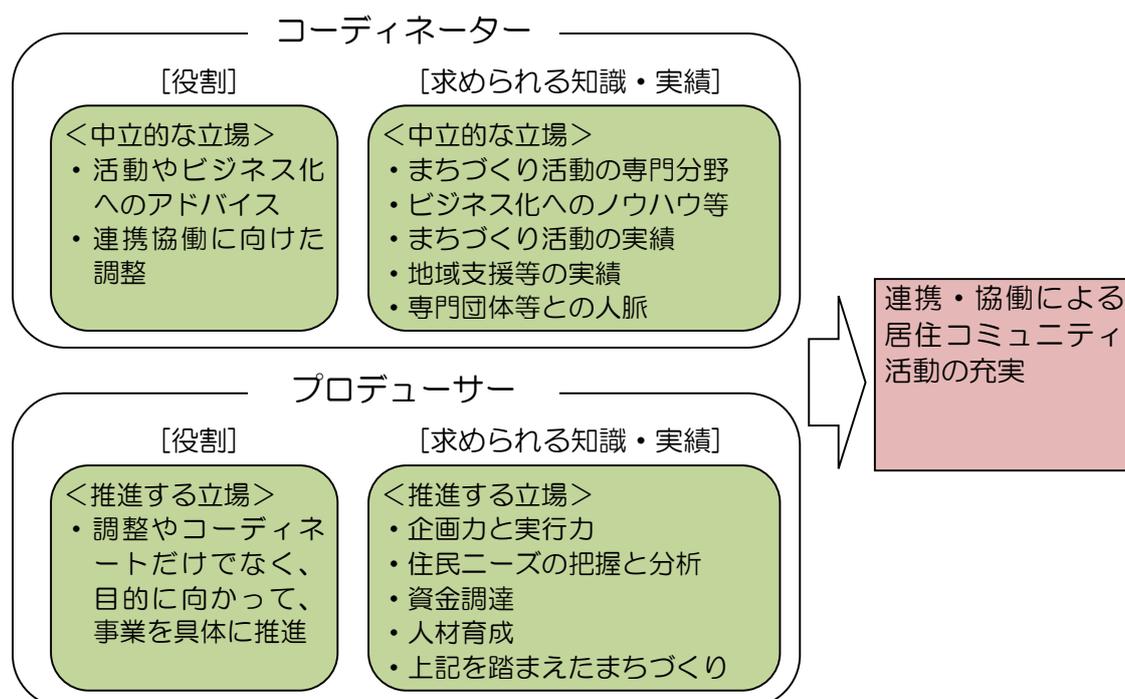
話し合いの場をつくり住民間で地域課題を共有して、連携協働による取組を始めるためには、話し合いを円滑にする「コーディネーター（調整役）やプロデューサー（事業推進役）」は、重要な役割です。コーディネーター等は公平中立な立場で話し合いを進める必要があります。そのことをキーパーソン等と共有しましょう。

また、時にはうまく調整がつかない場合もありますので、話し合いの主催者、行政職員や地域のキーパーソン、コーディネーター等で、随時意見交換しておく必要もあります。

※ 神奈川県では26年度からコーディネーター派遣事業を実施しています。

(次頁参照)

<コーディネーター・プロデューサーの役割等>

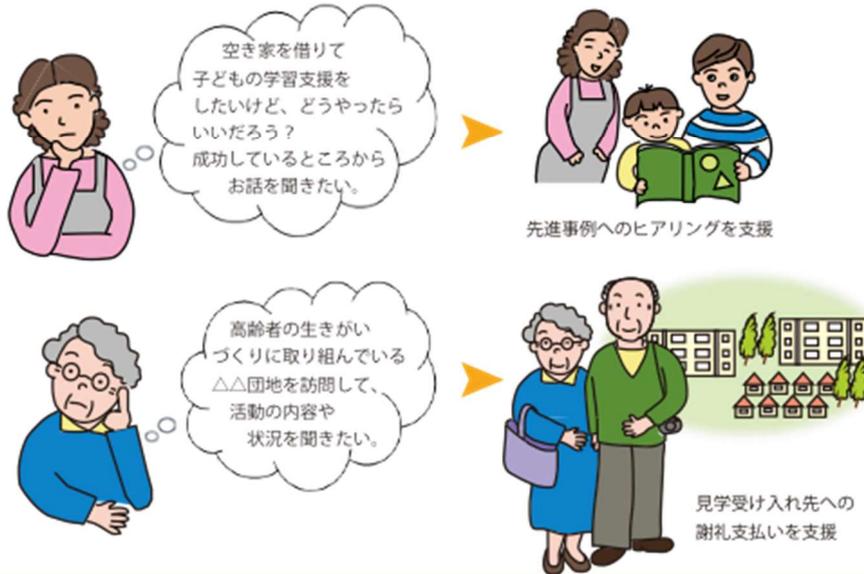


○コーディネーター派遣

神奈川県では、多世代居住のまちづくりに取り組む住民活動グループ、自治会や市町村を応援するしくみとして、「まちづくりコーディネーター派遣制度」を立ち上げました。

これは、県民のみなさまの自発的なまちづくりの活動に対し、専門的な立場からの助言・サポートが得られるよう、講師やコーディネーターの派遣を支援するものです。詳しくはお問い合わせください！

例えば、こんな場合に活用できます！



これまでの活用例から ~ その1

神奈川県下で幅広く活動する「NPO法人セカンドリーグ神奈川」に、川崎市内の空き家オーナーが、空き家をまちのために活用したい意向をもっている、と情報が入りました。

そこで、地域のリソースに精通し、ネットワークをもつ地元川崎の「NPO法人ぐらす・かわさき」よりコーディネーターをむかえ、不動産業者や住宅事業者も交えて、よりよい活用方策を数回にわたり話し合いました。(平成27年度)



これまでの活用例から ~ その2

少子高齢化の進む厚木市森の里地区では、今後のまちづくりを担う人材の発掘と、これまでのまちづくり理念の継承を目指し、若い世代を中心にした取り組みが進みつつあります。

平成28年度には「まちづくりのきっかけを探る！」というテーマで、横浜市青葉区で多彩な活動を展開する「NPO法人森ノオト」より講師をむかえ、様々な取り組み事例を学ぶ講座と、森の里のたくさんの人材を「見える化」するワークショップを行いました。



幅広い世代が活発に議論

(3) 話し合いの目標

目的やスケジュールを確認しましょう！

話し合いの場で、目的やスケジュールを確認しておくことで、進むべき方向や進捗の確認、進め方の見直しができます。

集まって自由に意見等を出し合ったままでは、住民主体のまちづくり活動に展開するのは困難です。多くの住民が力を合わせて行動するには目標やスケジュールが必要です。大きな目標は誰もが暮らしやすい地域づくりですが、その地域が解決したい具体的な課題やテーマに絞り込み、目標やスケジュールを確認して進めましょう。



話し合いを重ねても、すぐに目に見える成果はできません。進捗の状況をこまめに共有し参加者の意欲が低下しないようにしましょう。



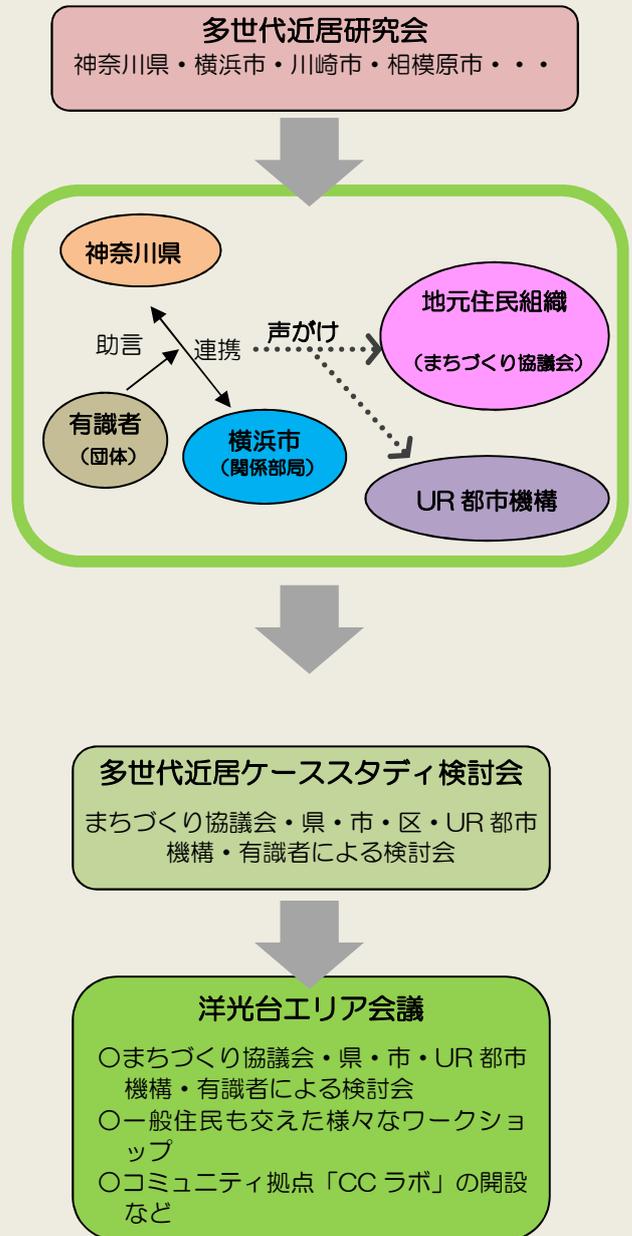
企業や事業者等も地域の一員です。まちが活性化すれば企業・事業者等にもメリットがあること等を話しながら、粘り強く参加協力を働きかけましょう。

事例：横浜市磯子区洋光台地区でのアプローチ（H23年度）

洋光台地区では「多世代近居のまちづくり」のケーススタディ地区として、平成23年9月から検討がスタートしました。ケーススタディの柱の一つが「様々な主体が一緒になって活動できる仕組みの検討」です。検討にあたって、地元のコミュニティ活動に詳しい有識者の助言のもと、地元の住民等が組織する洋光台まちづくり協議会に声をかけ、神奈川県・横浜市・磯子区、住宅事業者URからなる「洋光台地区ケーススタディ検討会」が設置されました。

「洋光台地区ケーススタディ検討会」では、上記まちづくり協議会の4つの部会メンバーを交えた討議のほか、社会福祉協議会や地域ケアプラザ、団地自治会や商店会など、地域活動の担い手へ幅広くヒアリングを行ない、検討会での議論と合わせて地域や地域の住まい方の現状と課題の把握、洋光台地区での施策の方向性について整理されました。

その後、この取組みは平成24年5月から住民ワークショップや空き店舗活用によるコミュニティ拠点の開設などを包含する「洋光台エリア会議」に引き継がれています。



事例：横浜市磯子区洋光台地区でのアプローチ（H24年以降）

洋光台エリア会議

「洋光台エリア会議」は、エリアマネジメントの体制構築に向けた関係協議の場づくりとして、洋光台まちづくり協議会、神奈川県、横浜市・磯子区、UR都市機構、有識者3名により、平成24年5月にスタートしました。

まちづくりの担い手が同じテーブルにつき、まちの活動報告や意見交換、有識者の方々からの助言等から、まちづくりの方向づけを行うことを目的としています。

エリア会議は平成30年まで6年間、計14回の開催を重ねる一方で、様々な「ワークショップ」、及び洋光台地区に県営日野団地をふくむ約11,000戸に配布する「まちづくりアンケート」、まちを元気にする活動の拠点「CCラボ」の運営等を実施してきました。これらは、より多くの住民の皆さんの思いやニーズ・シーズの把握に努めるとともに、エリア会議での情報共有・フィードバックを行うことで、協働によるまちづくりをすすめています。

まちづくりワークショップ

まちづくりワークショップは、まちの資源である「空間」「人」「団地」の「人」に焦点をあて、発掘すること、つなぎ合わせることで、見える化することにより、「人材の価値向上」を図ることを目指しています。まちづくりの進行・展開に合わせ、様々なワークショップが行われました。以下に示すように、大きくは3つのフェーズに分けられます。

第1フェーズ（H25） 全体・テーマ別ワークショップ

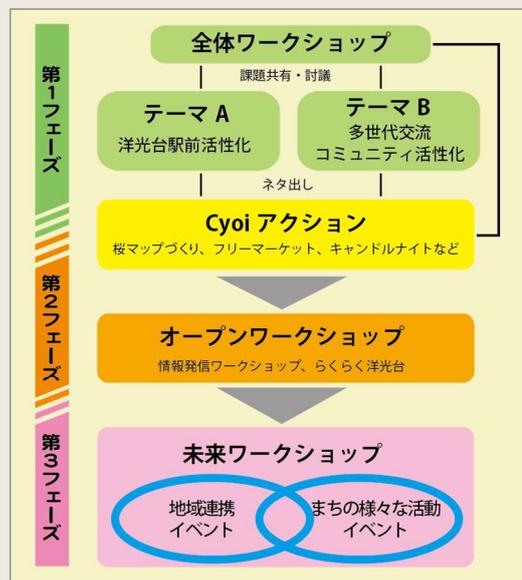
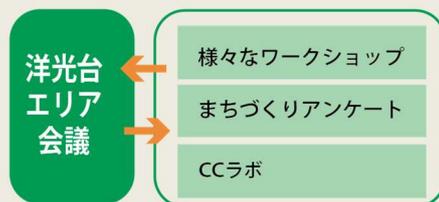
- ・まちの主だった活動グループの方々へ声がけし、地域・行政・URがまちへの思いや課題を共有、具体的な展開へとつなげる
- ・情報共有の場「全体ワークショップ」と具現化にむけた意見集約「テーマ別ワークショップ」

第2フェーズ（H26） オープンワークショップ

- ・新たな活動拠点「CCラボ」をベースに、様々な取り組みを情報発信、より多くの人への周知・参画を図る

第3フェーズ（H27） 未来ワークショップ

- ・別名「出前ワークショップ」。まちの様々な活動に参加、協働をはかることでまちづくりの輪を広げる。
- ・特に次世代を担う地域の子どもたちに向け、楽しく魅力的なまちの活動をサポート



まちの様々な活動に参加、サポートする未来ワークショップ